

理学部附属 植物園のいきものたち 第25回 ユクノキ



▲写真1 2003年6月5日

2005年6月、先月号の表紙写真でも紹介した植物園にあるユクノキが徐々に 一斉開花しました。2003年7月にも紹介しましたが、あらためて紹介します。

ユクノキ (*Cladrastis sikokiana* (Makino) Makino) は西南日本の山地でまれに見られる、マメ科の日本固有種です。高さ15 m以上になり、白い花をたくさん咲かせます。その様子から「雪の木」となり、ユクノキに転訛したとされていますが、毎年必ず雪の木になるとは限らないようです(写真1:2003年6月5日)。

今年は1998年以来といわれる一斉開花を迎えました(写真2:2005年6月4日)。まさに雪が降りつもったようです。花が咲くと同時に、クマバチやクロアゲハをはじめ、たくさんの昆虫が吸蜜にやってきていました。噂が噂をよび、連日おおくの人が夏の花見に訪れたそうです。私自身幾度か足を運び、写真撮影にも挑戦しましたが、花の白と空の青とのコントラストをうまく捉えることができませんでした。

植物園にはユクノキが2個体あるようですが、写真に写るのは勢いの良い西側の1個体だけです。そのユクノキと後方のメタセコイア2本とが、巨大なトロの立ち姿にも、ヨークシャテリアの顔にも見えてきます。



▲写真2 2005年6月4日

ユクノキがマメ科の植物だといっても、遠目にはピンと来ません。しかし、近づいてよく見るとマメ科らしい特徴がいくつかわかってきます。マメ科(ソラマメ亜科)特有の昆虫が羽を広げたような蝶形花(写真3)、莢状の果実とフジ(おなじくマメ科)にもよく似た羽状複葉(写真4:2005年6月29日)、といった特徴がわかっていただけでしょうか。

例年の部分開花ではユクノキは結実していないようですが、今年はたくさん結実するかもしれません。ユクノキはまれな木なので、周囲に交配相手がいるとは考えにくく、植物の繁殖様式には我々の理解を超えた点がたくさんあるようです。一斉開花がどのようにして決まるのか、ユクノキの種内で同調するしくみがあるのか、つまるところ次の一斉開花は予測できるのか、それらを知るには気長で丁寧な観察調査が必要なのだと、膨らみつつある莢を見ながらあらためて感じました。



▲写真3 2005年6月4日



▲写真4 2005年6月4日